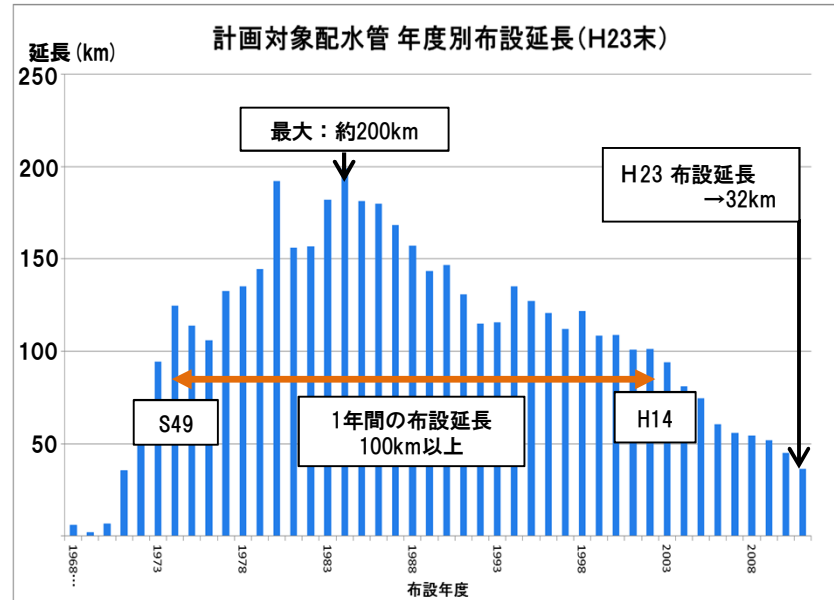


配水管更新計画

1. 現状と計画の必要性

○ 現状



配水管 延長内訳	幹線 (φ400mm以上)	枝線 (φ75~350mm)		補助管 (φ50mm)	計
		計画対象	水管橋部		
	410	4,749	15	677	5,851

○ 計画の必要性

昭和49年度以降は毎年100km以上（最大約200km）の配水管を布設
大量の配水管が次々と経年化＝大量更新時代の到来

大量の配水管が次々と経年化
 ↓
 漏水事故の増加
 ↓
 断水等による市民生活への影響
 有収率の低下
 維持管理費用の増加

様々な問題発生
 のリスクが高まる

大量更新時代の到来
 ↓
 更新事業量の増加
 ↓
 事業費用の増加

財源の確保

将来にわたり配水管の健全性を維持し、
 安全安定給水を確保していくためには・・・

更新事業を継続的かつ円滑に推進していくことが不可欠

配水管の
 延命化

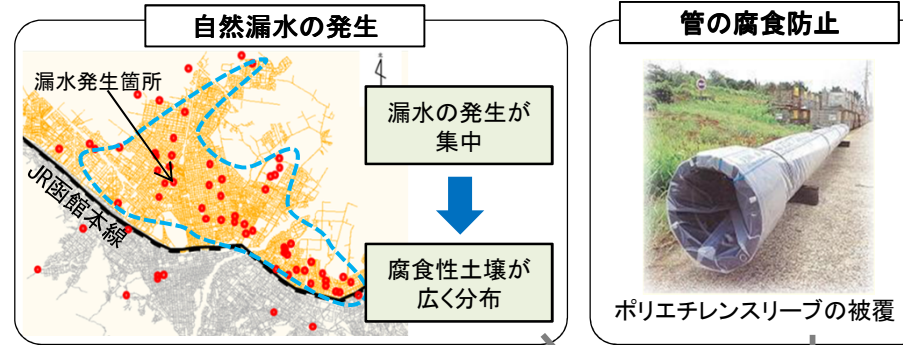
事業量（費）の
 平準化

延命化と平準化を考慮した持続可能な配水管更新計画を策定し
 計画的に事業を進めていくことが必要

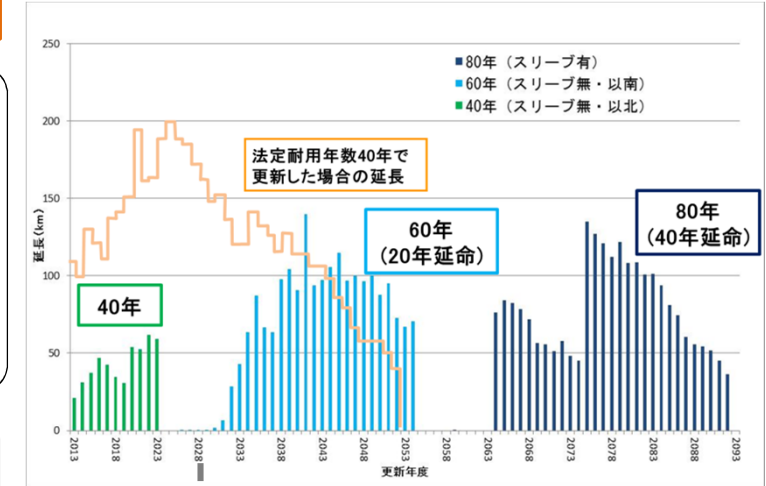
2. 延命化と平準化

延命化

外面腐食のリスクを考慮した更新基準年数を設定



法定 耐用年数	延長 (km)	更新 基準年数	延長 (km)	土質 (外面腐食)	ポリエチレンスリーブの有無 (外面腐食)
40年	4,749	40年	482	函館本線以北	無し
		60年	1,992	函館本線以南	無し
		80年	2,275	市内全域	有り

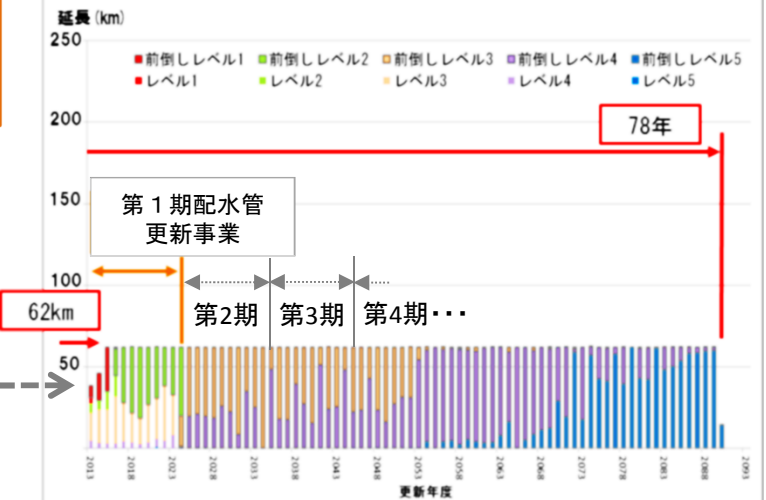
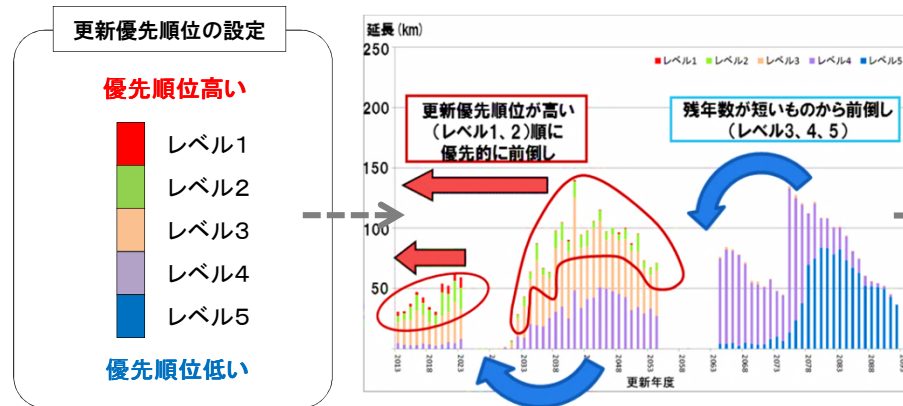


更新需要の
 ばらつき

事業量の平準化

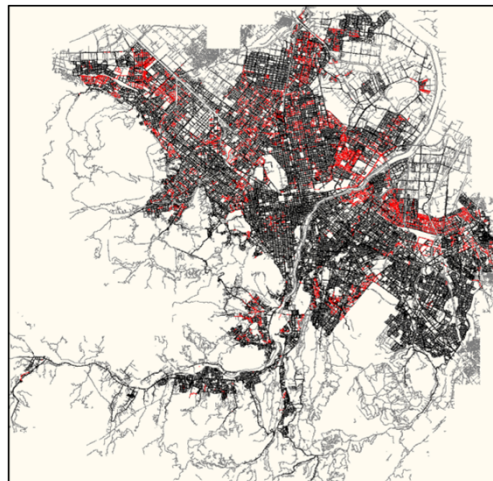
平準化

外面腐食の進行、耐震性、重要度から設定した更新優先順位を基に、前
 倒しを原則として平準化



- 年間事業量：62km（H23布設延長32kmの約2倍）
- 全対象管路の更新が完了するまでに必要な年数：78年
- 平成25年度から新たな配水管更新事業を実施

3. 第1期配水管更新事業



- 事業期間：12年（平成25(2013)～36(2024)年）
- 事業延長：約700km
- 概算事業費：約550億円

— : 第1期対象配水管
 — : 第2期以降予定配水管

第2期以降の配水管更新事業は、
 概ね10年単位に区切り、進捗管理
 をしながら計画的に進めていく。